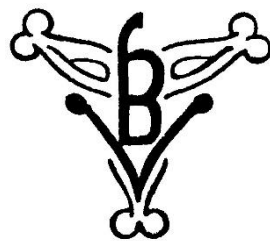


令和5年度（2023年度）

横須賀市教育委員会 チャレンジ研究委託

「多様な生徒たちから『主体的に学び』『深く思考する』
姿を引き出す学校づくりに関する研究

～好奇心や深い学びを生み出す手立ての構築～」



横須賀市立追浜中学校

多様な生徒たちから「主体的に学び」「深く思考する」姿を引き出す

学校づくりに関する研究～好奇心や深い学びを生み出す手立ての構築～

はじめに

平成 29 年告示の中学校学習指導要領（以下、学習指導要領）では、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」と示され、子どもたちが生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることの必要性が述べられている。

研究の内容

1. 学校研究テーマの設定

本校では、一昨年度までに3年間に渡って、多様な教育的ニーズのある子どもの学びを保証する学校づくりを推進する支援教育の視点に立った学校研究を行った。

この研究では、学校として共通の学習環境整備等をはじめとした支援体制を築き、それを実際の授業の中でどのように生かしていくか、より良い手立てはないかということを中心としたものであり、その研究の成果は「追浜中スタンダード」として設定することができた。

それを受けて昨年度は、これまでの研究により築かれた学習支援体制を生かしながら、現在の学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を学校として実現させるために、学校研究テーマを「多様な生徒たちから『主体的に学び』『深く思考する』姿を引き出す学校づくりに関する研究～好奇心や深い学びを生み出す手立ての構築～」と設定した。

このテーマの中心は「主体的・対話的で深い学び」であるが、ポイントとなるのは「学校づくり」という点である。「主体的・対話的で深い学び」を授業改善に留まらず、学級経営や生活指導にもつなげることで、多様な関係性の中で主体的に将来の展望を描き、未来を切り拓ける自立（自律）した生徒を育てられるようにしていくことを目的としている。

今年度は、昨年度に行った「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を、これまでの成果や課題をふまえてさらに深めていくことと、これまでに取り組んできた主体性をもった生活指導を継続させることで「自分で考える集団づくり」を実現させることを目指し、「追浜中スタンダード」が教員の入替わりがあっても「スタンダード」として定着できるように、同テーマを継続して進めることとした。

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善
- ・学習の「見通し」と「振り返り」を重視した活動
- ・生徒に考えさせる「主体性をもった」生活指導
- ・「心理的安全性」が保障された学級づくり
- ・継続性をもった支援体制

2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善

平成 28 年 12 月の中央教育審議会の答申では、授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」について、その趣旨と方向性を示している。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。
(中央教育審議会答申「初等中等教育における主体的・対話的で深い学び」より)

(1) 「主体的な学び」を実現するために

「主体的な学び」とは、自らの学びを「自分事」として捉えて学習に臨んでいることであると考えられる。具体的には、以下のような姿が見られることが望ましい。

- ・自分事としての課題を、自分の力で解決し、その過程と成果を自覚している。
- ・実生活や実社会とつながりのある具体的な「課題設定」がなされている。
- ・生徒が自らの学習活動の見通しを持っていて、
- ・生徒が自らの学習活動を客観的に振り返ることができている。

これらが実現するためには、目標（ゴール）と過程（プロセス）、評価のイメージを明確にすることや、授業の感想ではなく、学習内容を意味付けたり、価値付けたりするための振り返りを行うことが求められる。

(2) 「対話的な学び」を実現するために

「対話的な学び」とは、身につけた知識や技能を相手に説明したり、他者から情報を収集したりするとともに、他者とともに新たな知識や価値を創造することと考える。そのためには、自分自身について考えること（自己との対話）や他者との学び合い（他者との対話）、多様な情報収集（教材との対話）の場が学習活動として設定されることが重要である。それによって、学習者自身の考えの広がりや深まりが期待できる。

(3) 「深い学び」を実現するために

「深い学び」とは、見方（視点）・考え方（思考の方向性）を働かせた概念的な知識の獲得であると考えられる。身につけた知識や技能を活用し関連付けることが求められる。そのためには、前述した「振り返り」の活動を充実させることが重要である。学習内容は意味付けや価値付けによって一般化されるが、「一般化される」ということは知識や技能が確実に定着しているということでもある。その時点で知識や技能が概念化されていると言える。

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」はそれぞれが重要な視点であるが、どれか一つを切り離して考えるものではなく、互いに連動しながら学習活動の質を高めていくことが欠かせない。

3. 学習の「見通し」と「振り返り」を重視した活動

現在の学習指導要領の方向性は、新しい時代に必要になる資質・能力を授業を通して育成することにある。

- ・「何を学ぶか」……学習指導要領の内容、指導事項
- ・「どのように学ぶか」……「主体的・対話的で深い学び」、学び方を学ぶ（学び方を選択する）
- ・「何ができるようになるか」……学習指導要領の指導事項に示されている資質・能力

中学校学習指導要領には、以下の記述がある。

第1章 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(4) 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

また、中学校学習指導要領解説「総則編」においても、「今回の改訂においても、引き続き生徒の学習意欲の向上を重視しており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たって、特に主体的な学びとの関係からは、生徒が学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる事が重要になる」という記述があり、生徒が学習の見通しをもつことの重要性は、学習評価の妥当性や信頼性を高めることにつながる事が、文部科学省通知にも書かれている。

「学習評価の方針を事前に児童生徒と共有する場面を必要に応じて設けることは、学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、児童生徒自身に学習の見通しをもたせる上で重要である」

(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(文部科学省通知)平成31年)

以上のことから、単元の開始時に「学習の見通し」(単元の目標・学習内容・評価規準・評価方法の概要の理解)をもち、単元の終了時に「学習の振り返り」(学習内容の意義付けや価値付け・学習を通じた自分自身の気づき)を行うことが重要であると考えた。

4. 生徒に考えさせる主体性をもった生活指導と心理的安全性が保証された学級づくり

生徒が主体性をもって日々の活動に取り組むためには、生徒が決められたことや指示されたことをただこなすのではなく、活動を自分事として捉え、その意味付け・価値付けができた状態であることが望ましい。そのためには生活のルールについて生徒自身に考えさせたり、行事等の取り組み内容やルール設定を自分たちで設定して取り組めるようにさせたりすることで、主体性をもたせるようにした。

また、その際に不可欠なのが生徒に心理的安全性が確保されていることである。生徒が安心して過ごせ、安心して自らの考えを述べ合える環境があって初めて主体性をもった生活指導が成立すると考える。

5. 継続性を持った支援体制

一昨年度まで行っていた支援の視点をもった学習環境整備等をはじめとした支援体制は、当然のことながら全ての学習活動の基盤として継続して行うこととする。

6. 授業研究のための共通の方策

「学びのプラン」を作成し、単元ごとの学習の見通しと振り返りを行えるようにする。

「学習の見通し」をもたせるために、単元の目標は何か、目標実現のための学習活動をどのように行うのか、生徒が学習の進め方で困惑することがないようにその手順を明示することとした。生徒には、教員用の学習指導案を生徒向けの平易な言葉で再構成した単元の学習計画表「学びのプラン」を配付し、生徒が単元目標・評価規準・学習の流れ・評価方法がいつでも分かるようにしておくことで、単元全体の見通しを持ち、単元の終了時に振り返りを適切に行うことが可能になるようにした。

昨年度は「学びのプラン」ではなく「単元計画表」という名称で作っていたが、それを「学びのプラン」とすることで、生徒にどのようなものなのかをより分かりやすい形で活用できるようにした。

また、昨年度はそれに加えて單元ごとにルーブリックという「見通し」と「振り返り」を行うためのツールを作成し、評価規準に記される「B規準」だけでなく、「この姿が実現できればA」の内容も明示することで、生徒が自己調整の場面を構築し、評価への見通しも立てられることを目指した。

しかし、一年間の取り組みの振り返りから「B規準を超えたらA」の枠組みまで設定するべきではないという意見もあり、今年度については共通の方策としては行わないということにした。

7. 本校の生徒の学習に対する意識

研究を進めるにあたり、本校の生徒の意識をアンケートにより調査した。本校の生徒たちは基本的に落ち着いて授業に臨み、学習に前向きに取り組んでいる。「勉強が好きですか」という質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は合わせて約55%であった。一方で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した約45%の生徒は、その理由として「つまらない」「面白さが分からない」「苦手だ」ということを最も多く挙げていた。

また、「やらされていると思っている」「将来使わないものがあると思う」という、学習意欲という面で課題を感じている生徒も多くいた。また、「分からないときにどうしたらいいのか分からないから」という、課題解決の方法を見いだせない生徒もいた。その一方で、「失敗したり、分からないことがあったりしても、粘り強く挑戦していますか」という質問に対して約73%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、課題を解決しようという気持ちも持ち合わせていることが分かった。

8. 本校教員の課題意識

学校研究テーマに対して、教員が個々で感じている課題意識をアンケートにより調査した。『主体的・対話的で深い学び』を日々の授業の中で実践できていますか」という質問に対して「できている」「ややできている」と回答した教員は、「主体的な学び」については約80%、「対話的な学び」については約90%、「深い学び」については約70%、と全体として約7割の教員ができている実感を持っていた。

これは、昨年度の同内容の質問「主体的な学び」は約79%、「対話的な学び」は約64%、「深い学び」は約64%であったことから、授業改善の意識の高まりが実践につながっていると考えられるだろう。

ただ、回答の理由としては「ある程度はできていると思うが、『深い学び』につなげられているかは自信がない・不安である」という傾向がみられており、「主体的な学び」と「深い学び」とでやや開きがある理由の一つになっていると考えられる。

このアンケートの結果から、それに対する手立てを整理して、個人研究を進められるようにするために「課題解決のための手立て設定シート」を作成することとした。これは、学習指導と生活指導それぞれの場面において考えることにしている。

学習指導においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために課題と感じていることとして、それに対して講じる手立てを記入する。生活指導においては、生徒が主体性を発揮するために課題と感じていること、それに対して講じる手立てを記入する。それを校内で共有するようにした。

9. 授業研究の方法

上記の方策の実践と「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業研究会を定期的に行うこととした。授業観察に当たっては、学習指導案・学びのプラン・付箋紙を参観する教員に事前に配付する。

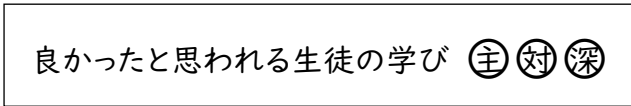
なお、授業観察と授業後の研究討議の方法については、独立行政法人教職員支援機構の提案する研修プラン「主体的・対話的で深い学びの3つの視点を養う」を活用した。

また、授業研究会を行う教員は今年度については各教科で1名ずつとしたため、研究授業を行わない教員については教科内で授業を積極的に見合い、授業を参観した記録を授業者に渡して振り返りを行うこととした。

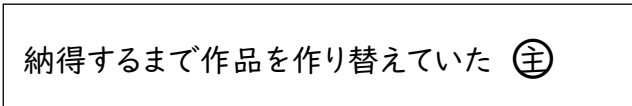
(1) 授業観察

参観者は、授業内において良かったと思われる生徒の学びを付箋紙に、その横に「主」「対」「深」のいずれかを記す。付箋紙に記入する文言は、生徒が主語になるようにする。

(付箋のイメージ)



(記入例)



図：付箋のイメージと記入例

(2) 生徒インタビュー

・授業を行ったクラスから3名を選び、今回の授業についてのインタビューを行う。

質問：「今回分かったこと（できたこと）は何か」「授業を受けてみての感想」

「こんな授業を受けてみたい」他、参観者からの自由質問

(3) 研究討議

- ・模造紙を「主体的」「対話的」「深い学び」の三分割にした「Yチャート」にする。
- ・参観者を4人ずつのグループに分ける。
- ・付箋をそれぞれの相当する「学び」に貼り、似たもの同士で分類する。
- ・分類した付箋にふさわしい「実現したい子供の姿カード」を貼る。
- ・それぞれのグループのYチャートを見て、グループごとの違いを中心に共有を図る。

主体的な学び 	興味や関心を高める	主体的な学び 	見通しを持つ
主体的な学び 	自分と結び付ける	主体的な学び 	粘り強く取り組む
主体的な学び 	振り返って次へつなげる	対話的な学び 	互いの考えを比較する
対話的な学び 	多様な情報を収集する	対話的な学び 	思考を表現に置き換える
対話的な学び 	多様な手段で説明する	対話的な学び 	先哲の考えを手がかりとする
対話的な学び 	共に考えを創り上げる	対話的な学び 	協働して課題解決する
深い学び 	思考して問い続ける	深い学び 	知識・技能を習得する
深い学び 	知識・技能を活用する	深い学び 	自分の思いや考えと結び付ける
深い学び 	知識や技能を概念化する	深い学び 	自分の考えを形成する
深い学び 	新たなものを創り上げる		

図：実現したい子供の姿カード ※切り取って使用する
(独立行政法人教職員支援機構HPより活用)

10. 研究授業の記録

(1) 6月29日(木) 第1回授業研究会① (3学年 英語科)

【単元名】

「Haiku in English」

【単元目標】

クラスメイトのお互いの知らない一面を知るために、クラスメイトの好きなことや、ずっと取り組んできたことなどを伝え合う技能を身に付け、事実や考えを伝え合うことができる。

【生徒インタビューの記録】

<今回の授業で分かったこと(できたこと)>

- ・1分間話し続けるためのリアクションの仕方や返し方。

<授業を受けてみての感想>

- ・話すのが楽しかった。
- ・普段あまり話さない生徒と話すいい機会だった。

<こんな授業を受けてみたい>

- ・外国人と話すときに使えるような表現を学びたい。
- ・ライティング練習をしたい。

【良かったと思われる生徒の学び「主体的な学び」】

- ・クラス全体で積極的に取り組むことができていた。
- ・1分間粘り強く会話し続けられていた。

【良かったと思われる生徒の学び「対話的な学び」】

- ・授業のほとんどが英語での会話だったが、子どもたちのなかで話そうとする姿勢や雰囲気ができている。
- ・対話する活動量が多かった。

【良かったと思われる生徒の学び「深い学び」】

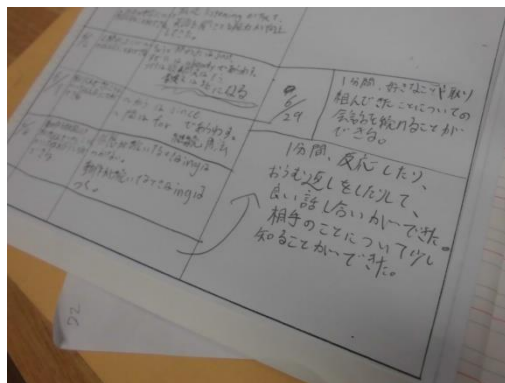
- ・ペアが変わることで会話がより続くようになっていた。
- ・あいづちを覚え、それらを活用しようとしていた。

【授業者の自評】

やろうとしていたことは違っていたが、そこから軌道修正をしてやってきた。この単元は現在完了を活用できるようにすることであったが、スピーキング時間があまりとれなかったため、今回の授業では現在完了を使うのではなく、会話をし続けることをメインで行っていった。

【指導・助言者による講評】

生徒と授業者の関係が良いことが分かった。授業の基盤には学級経営がある。その場面によって、表現が変わることを生徒自身が気づいていたので、そのような気づきを大切にしていける。普段話さないような人と話せるということは大切。



(2) 6月29日(木) 第1回授業研究会②(2学年 美術科)

【单元名】

「アルコールインクアートが生み出す、幻想的な情景」

【单元目標】

偶然の形や色彩をつくり、光や影の効果を考え、それによってもたらされる感情や美しさから主題を生み出す。

【生徒インタビューの記録】

<授業を受けてみての感想>

- ・自分の思っていることとは違う感想を他の人から聞くことができ、自分のやり方の幅が広がってよかった。
- ・同じ班の人のやり方を取り入れられた。

<こんな授業を受けてみたい>

- ・PCでも色の調整・混成を確認できるし便利ではあるのだが、実際にやってみて出来上がる色は若干違ったりする。だから自分自身で時間を取っていろいろ試してみたい。

【良かったと思われる生徒の学び「主体的な学び」】

- ・事前に修得した知識や技能を最大限に使って自分のイメージしたことを表現することができていた。
- ・視覚的なフォローから、片付けまで含めて見通しをもった活動ができる。

【良かったと思われる生徒の学び「対話的な学び」】

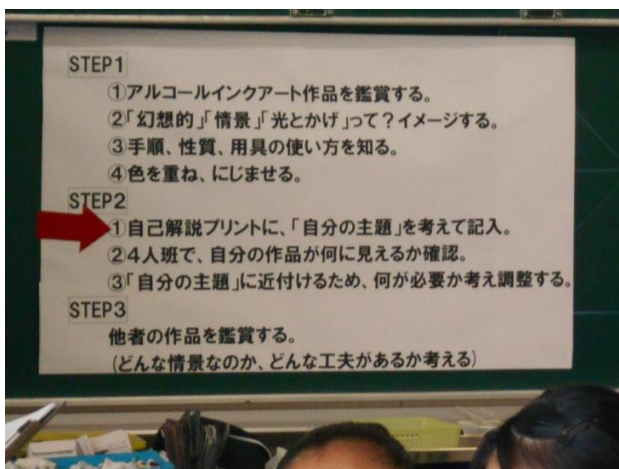
- ・人の作品に対して感じたことを自由に発言したり、気軽にアドバイスをもらったりできるなど、安心して対話のできる授業の雰囲気が作られていた。

【良かったと思われる生徒の学び「深い学び」】

- ・仲間の意見を聞くことで、主題や方向性を見いだすことのできる生徒が多数いた。もっと良い作品にするにはどうすればいいかを様々な角度から思考し、また他者に質問する姿がみられた。

【指導・助言者による講評】

- ・作品を作り始めてから主題を決めていくというところに面白さがあった。
- ・意見交換の時間など、対話の工夫がなされていた。そのため、(作業も大切ではあるが)そこにもっと時間を割けるとよかった。
- ・振り返りや自己調整の時間を丁寧にとれるとよい。



(3) 9月14日(木) 第2回授業研究会①(3学年 社会科)

【单元名】

「現代の日本と世界」

【单元目標】

单元を貫く問い『日本はどのように戦争からの復興を遂げ、国際関係を修復させたのだろうか?』

【生徒インタビューの記録】

<今回の授業で分かったこと(できたこと)>

- ・ どの部分を見たり調べたりすればいいか観点が分かった。
- ・ 先生の助言により調べることができ、新しいめあてができた。
- ・ 戦後の復興から国際関係の修復へつながった。2つの事実が分かった。

<授業を受けてみての感想>

- ・ 知識を身につけるだけでなく出来事の原因や背景、それによる影響を学べた。
- ・ 他の班の意見を聞くことでちがった発想や分かることがある。

<こんな授業を受けてみたい>

- ・ グループ学習だけでなく、最終的な答えや結果を知りたい。
- ・ 学習していることが今の自分の生活や世の中にどうつながっているのか知りたい。

【良かったと思われる生徒の学び「主体的な学び」】

- ・ 問いを自分たちで考える⇒学びを自分事に行っている
- ・ 粘り強く取り組む姿や振り返って次につなげる姿があった。

【良かったと思われる生徒の学び「対話的な学び」】

- ・ 他グループのグラフと比較している。他の班の考えを共有し「わかること」が増えていた。
- ・ 一人の考えではつながらなかった出来事が、対話により関係があると気づいていた。

【良かったと思われる生徒の学び「深い学び」】

- ・ グラフを用いて調べたことをまとめることで視覚化され、根拠をもって考えることができていた。
- ・ 対話する中で自分たちの意見を再構築していた。

【授業者の自評】

2年生の後半から、試行錯誤しながらも生徒と一緒に授業をつくる感覚で、深い学びを生み出す「手立て」にこだわってきた。グループ活動の壁をなくすために、学校教育目標を意識した授業づくりや教科係が板書をつくるなど、人と人とのつながりを大切にしながら子どもたちの活動を充実させている。

【指導・助言者による講評】

根拠をもって対話している姿や、思考を再構築し自分事に行っている姿が見られ、それが深い学びとなっている。单元を通して身につけさせたい力を軸にして、学習したことが自分の生活や未来の生活にどのようにつながるかが大切。より主体的に学ぶ姿を引き出すためには、グループで課題設定させることも重要。見方・考え方の共有がさらに深い学びを生み出すことにつながる。



(4) 9月14日(木) 第2回授業研究会②(2学年 数学科)

【单元名】

「1次関数」

【单元目標】

グラフから場面を読み取り、条件に沿ってグラフを使って問題を解決することができる。

【生徒インタビューの記録】

<今回の授業で分かったこと(できたこと)>

- ・速さ、時間が違っていても、ある範囲にすれば答えが分かる。
- ・時間のずらし方が分かった。
- ・速さを変えることは時間を変えること。

<授業を受けてみての感想>

- ・グラフから物語を想像できた。
- ・友達と意見交換をし、確認したことで見直しができる。

<こんな授業を受けてみたい>

- ・みんなで意見を組み立ててみたい。
- ・問題をリアルでやってみたい。(例) バスケットのシュート数の平均など

【良かったと思われる生徒の学び「主体的な学び」】

- ・場面を想像していた。(自分と結び付ける)
- ・黒板を見ながら、自分の力で書いていた。(粘り強さ)
- ・目標の視覚化(見通しを持つ)

【良かったと思われる生徒の学び「対話的な学び」】

- ・自分の意見→周りの意見→深い学びにつながる。
- ・1人が図に答えを書く中で、他の子と話しながら解いていた。(協働して課題解決をする)

【良かったと思われる生徒の学び「深い学び」】

- ・既習事項を活用して、グラフの情報から速さを求める。
- ・平行移動すれば求められる(知識・技能を活用する)。

【授業者の自評】

- ・活発なクラスだが、すぐ諦める傾向がある。個々にフォローしたが全員を見取れなかった。
- ・数値は読めるが、その先は? と思い、場面を読み取らせなかった。
- ・4~6人班の活動が困難なクラスである。

【指導・助言者による講評】

- ・グラフをずらすことは、新しい考え方である。
- ・計算しなくても分かることがあることを感じ取れていた。
- ・学習状況調査の結果と対話的な学びには関係性がある。
- ・生徒同士の対話を成立させるには、話せない子たちをどう変え、考えを持つ子を生かしていくか。



(5) 11月17日(金) チャレンジ公開研究授業①(2学年 国語科)

【单元名】

「武士の生き方どう思う？」

【单元目標】

- ・ 武士の生き方や物の見方について理解し、考えを広げる。

【生徒インタビューの記録】

<今回の授業で分かったこと(できたこと)>

- ・ 那須与一が弓矢を放った時の気持ちを追体験できた。
- ・ 言葉のとらえ方・考え方が人によって違う他者理解に繋がった。

<授業を受けてみての感想>

- ・ 佐々木先生の面白さがつまった授業だった。
- ・ 文章から読み取るより実践型の授業で楽しかった。

<こんな授業を受けてみたい>

- ・ 想像するのも好きなので文章を解釈する授業。
- ・ 古典の世界にもっと没入出来るような授業。

【良かったと思われる生徒の学び「主体的な学び」】

- ・ 与一が失敗できない状況に置かれていることに気が付いた。

【良かったと思われる生徒の学び「対話的な学び」】

- ・ ロールプレイを通して那須与一と対話した。
- ・ 自分だったらと考え意見の比較ができた。

【良かったと思われる生徒の学び「深い学び」】

- ・ それぞれの立場で考えていた。

【授業者の自評】

- ・ 想像は今までの知識や経験に基づいているので、場面を設定して再現する授業をした。
- ・ これから与一の心情を想像していくので、この一時間では状況を理解できれば良い。

【指導・助言者による講評】

- ・ 活動あって学びなしにならないよう、ねらいを達成させるための過程にしてほしい。
- ・ 学問と生徒の語彙の差が大きいことがあるので、生活言語を大切に、受け止め、本文に寄せて深い学びに導くことが大切。



(6) 11月17日(金) チャレンジ公開研究授業②(1学年 理科)

【单元名】

「身の回りの現象 光の世界」

【单元目標】

- ・身の回りの物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、観察や実験を通して技能を身につけ、その規則性や関係性を見出して表現できる。

【生徒インタビューの記録】

<今回の授業で分かったこと(できたこと)>

- ・光が屈折するときの入射角と屈折角の関係がわかった。
- ・空気とガラスの間で、光がどのように曲がるのか体験できた。

<授業を受けてみての感想>

- ・グループ活動なので、楽しく活動できた。
- ・ほかの班の付箋の説明が分かりやすかった。
- ・星のマークを中心にみて、大事なところがよくわかった。

<こんな授業を受けてみたい>

- ・植物や虫を育てる授業を受けてみたい。
- ・ノートを使ってまとめる作業をしてみたい。

【良かったと思われる生徒の学び「主体的な学び」】

- ・実験道具を使って、次々に光の角度を変えて主体的に調べた。
- ・canvaを使って、実験で見つけたことを入力できた。

【良かったと思われる生徒の学び「対話的な学び」】

- ・ほかの班の意見を canva で見て、大事なところを共有できた。
- ・グループ活動の中で、光の曲がり方について新しい発見があった。

【良かったと思われる生徒の学び「深い学び」】

- ・空気中とガラスの中での光の速さを学び、屈折する方向について実感をもって理解できた。

【授業者の自評】

canva を使って授業づくりをする試みは、まだあまり浸透していないので、学習のツールとしての可能性を追求した。『自分たちの力で課題を解決できる』ことを目標に、単元を通じて学ぶことを自分たちで考え、解決していく過程を体験させたいと考えた。

【指導・助言者による講評】

canva を使った授業は意見を共有できる点は良い。さらに、他の班の意見に対してリアクションする等、双方向性が深まるとよい。実験道具をもう少し手元に長く置いて、もう一度確かめる時間があるとよかった。授業の目標を自分たちで決め、今日の学びを次回の学びへつなぐ形態は、主体性を引き出す非常に良い試みだった。継続して取り組んでほしい。



11. 授業研究における方策「学びのプラン」についての考察

横浜国立大学の高木展郎名誉教授は、「主体的な学び」が実現するための重要な要素として、以下の三つを挙げている。

- ① 学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けること。
- ② 生徒たちの学ぶ意欲が高まるように、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、生徒たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり、自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすること。
- ③ 学習を振り返る際に、生徒自身が自分の学びや変容を見取り自分の学びを自覚することができ、説明したり評価したりすること。

先にも述べた「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を、生徒たちが単元の初めに把握し、振り返り際には「何を学んだか」「どのように学んだか」「何ができるようになったか」をメタ認知することが大切になってくる。

また、評価の方針についても生徒と共有することが評価の妥当性・信頼性を高めるために必要である。本研究では、上記を充実させるための方策として「学びのプラン」を活用させることとした。

各単元の初めに「学びのプラン」を配付し、生徒が単元目標・評価規準・学習の流れ・評価方法がいつでも分かるようにしておくことで、単元全体の見通しを持つことが可能になるようにした。

また、単元の初めだけではなく、毎時間に「学びのプラン」を用いて「今日は単元全体のこの部分を学習する」ということを知らせることにより、単元全体の流れの再確認と本時の学習活動の位置づけを知ることにつなげることができた。

研究授業を含めた単元の終了後に、生徒対象に実施した「研究授業を受けてのアンケート」での『学びのプラン』は、学習の意欲を高めることにつながっていますか」という質問に対してどのクラスも8割～9割の生徒が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答し、『学びのプラン』は、今回の単元を通して身につける力を知ることに関与しましたか」という質問に対しては全学年で9割の生徒が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。また、『学びのプラン』があることで、学習が進めやすくなりましたか」という質問に対しても、どのクラスも6割～7割の生徒が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。

その理由について「学びのプランがあることで、その最終目標に向かって授業を進めることができるから」「単元の評価についてなどが書いてあるから」「先に学ぶべきこと、ゴールが設定され、視覚化されることで、学んでいく過程で重要なところや最終的な目標が見え、学習が進めやすかったから」などといった、肯定的に捉えた意見が多く見られた。

これらのことから、「学びのプラン」は、生徒が単元の学習の見通しを立て、意欲をもって学習に臨むことにつながっていることが分かった。

12. 学校研究の成果と課題

(1) 成果

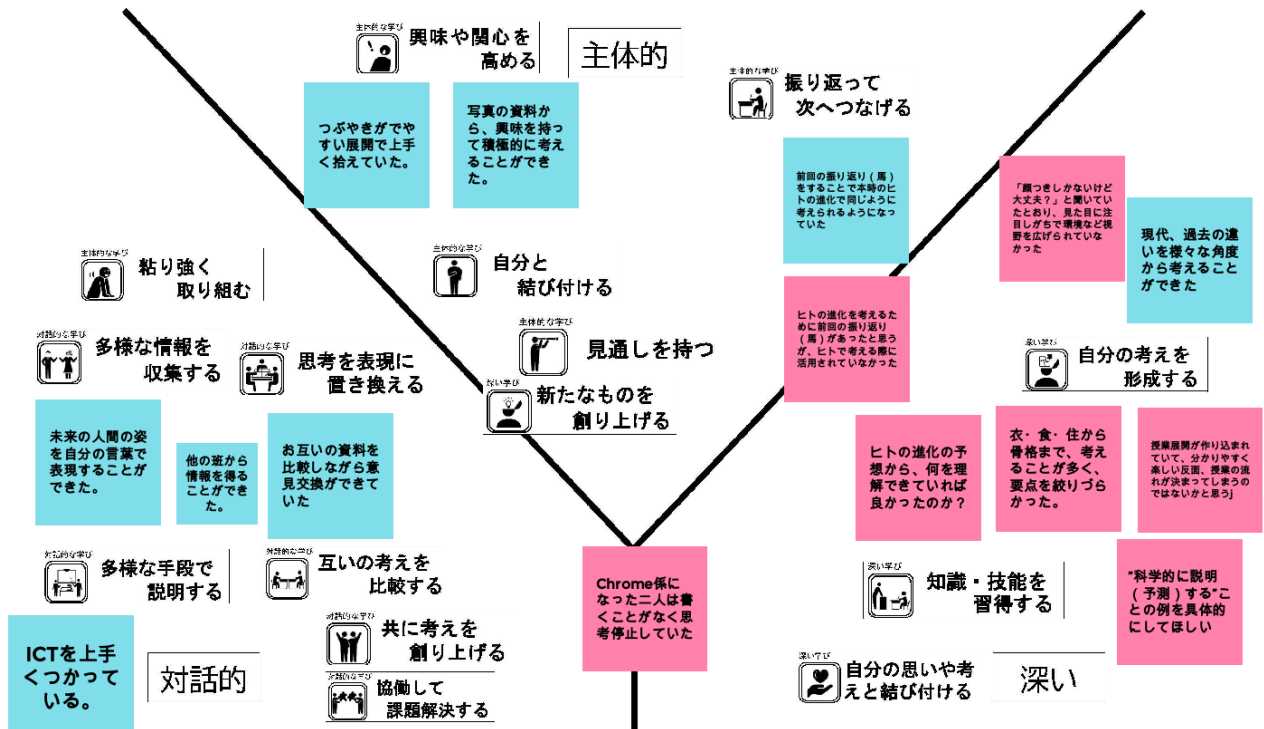
- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を継続して行うことができた。

今年度は、昨年度と同様にこれまでの成果と課題を踏まえながら「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をさらに深めていくこととした。また生徒が主体的に学ぶ姿や、様々な事柄に対して深く思考する姿の実現を目指して授業研究を行った。昨年度の実践をつなげながら各教科授業実践を行ったことで、生徒自ら先を見通して学習に取り組んだり、自身の活動を丁寧に振り返りながら学んだこ

とを他の場面にもつなげて考えたりする様子も多く見られた。あらためて「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を継続して行っていくことの重要性を確認することができた。

② Yチャートの活用と、生徒を主語にした協議を行うことで、より建設的な協議ができた。

今年度も研究授業後の協議については、Yチャートを活用し「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業を通して見られた成果について話し合いを行った。観察する視点が具体化されたことで、どのような手立てが目標とする生徒の姿を引き出すために効果的だったのかがより分かりやすくなった。また、今年度は授業を受けた生徒の良い姿を中心に話し合うなど、生徒を主語にして協議を行ったことも話し合いを行う上で効果的だったと考えられる。



図：研究討議で使用したYチャートの例

③ 生徒インタビューによる生徒の生の声を聞くことで、教員の研修を深める機会となった。

今年度は、研究授業後に授業を受けた代表生徒へのインタビューを実施した。「今回の授業で分かったこと(できたこと)は何か」「授業を受けてみての感想」「こんな授業を受けてみたい」など、生徒が実際に感じたことや参観した教員が疑問に思ったことなどをその場で確認し、生徒の生の声を聞くことで、授業者にとっても参観者にとっても考えを深める良い機会となった。

④ 「学びのプラン」を活用することで、より良い学習の「見通しと振り返り」につながった。

先に述べたとおり、各教科で单元ごとに「学びのプラン」を配付し、生徒に「何をまなぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるか」等の具体的な見通しをもたせ、より学習内容に沿った振り返りができるようにした。各教科の特性に合わせた様式で作成し、生徒と具体的な見通しを共有したことで、学習内容の意義付け・価値付けをしたり、自身の成長や課題を実感したりすることができていた。また、振り返りを充実させることで次の単元の学習へ意識をつなげることになり、「学び続ける意欲」を喚起させる効果があったと言えよう。

⑤ 「主体性を持った生活指導」を学校全体で取り組むことで、生徒が主体的に活動できるようになった。

「学校づくり」の部分については、生徒に考えさせる「主体性をもった生活指導」を大切にしながら

各学校行事の運営や日々の生活指導に学校全体で取り組むことができた。生徒がただ言われたことに従うのではなく、様々な取り組みやルールの意義をしっかりと考え、どのような行動が望ましいかを丁寧に考えたことで、積極的に行事に参加したり、自ら考え主体的に行動したりする姿が多くの中で見られるようになった。来年度以降、教員の入れ替わりがあっても、これが「追浜中スタンダード」として継続していけるようにすることが重要である。

(2) 課題

①「学びのプラン」の形式と使い方の共有が不十分だった。

「学びのプラン」の有効性については先に述べたとおりであるが、書式は各教科の特性に合わせて作成してもらうため、必ず載せる項目は共有したのみで統一したものにはしなかった。

それにより、内容が分かりづらくなってしまいう面があったことは否めず、使い方等の共有も不十分であったため、教科によっては有効に活用しきれない場面も存在していた。

今後も、「学びのプラン」は授業におけるスタンダードとして継続していくので、もっと有効活用できるようにしていく必要がある。

②教科内で授業を見合う取り組みを十分にやりきれなかった。

お互いの日々の実践から学び合う時間を増やせるよう授業を見合う取り組みを行った。今年度は最低年3回各教科でお互いの授業を見合う機会を設定するようにしたが、教科によっては業務の関係からなかなか実施することが難しい様子も見られた。いろいろな人に見てもらうことで、自分だけでは気づけない良い点や改善点を知ることができ、授業改善へとつなげていけると考えられる。来年度の実施頻度や報告の仕方などを再度検討する必要があるだろう。

おわりに

今年度の学校研究は、昨年度に引き続き、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を行い、それが子どもたちの学びの実現につながっているのかを話し合う形をとった。また、研究協議の際に生徒の生の声をインタビュー形式で聞くということも行った。

学習における「好奇心」とは、主に授業の導入時にどれだけ興味・感心を持てるかというところが重要となる。一方で、「深い学び」を生み出すには、単元の後半に既習事項を活用する必要のある発展的な課題や、単元の内容を客観的に振り返る活動などが欠かせない。

それらが形あるものとして生かされるためには、導入時での「好奇心」と後半部での「深い学び」が一本の線でしっかりとつながることが必要であり、それらをつなぐものがメインテーマにある「主体的に学び」「深く思考する」姿が実現することであると考え。毎回の研究授業では、そのような生徒の姿が見られるようにする、教員個々の努力が形になっていたように感じる。

また、学習環境においても、学習者である生徒一人ひとりが認められ、失敗を恐れず、安心して学習に臨むことができる教室であることが求められる。それが、研究テーマにある「学校づくり」という部分につながっていくと考えている。

より良い「学校づくり」は、より良い「人づくり」につながると考える。授業実践だけではなく、学校生活において学んだことを「自分の人生」という広いフィールドにどのように意義付け、価値付けることができるのか。しかも、それを生徒が主体的に考えられるようになっていくのか。それができるようにすることが重要である。

これからも、学校が子どもたちの人生を豊かにしていくための力を育む場所であり続けるために、すべての教員がさらなる自己研鑽を重ねられるようにしたい。

引用・参考文献

文部科学省「中学校学習指導要領」

文部科学省「中学校学習指導要領解説」

文部科学省「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

中央教育審議会答申「初等中等教育における主体的・対話的で深い学び」

独立行政法人教職員支援機構「研修プラン『主体的・対話的で深い学びの3つの視点を養う』」

令和5年度（2023年度）
横須賀市研究委託（チャレンジ）

【学校研究テーマ】

「多様な生徒たちから『主体的に学び』『深く思考する』
姿を引き出す学校づくりに関する研究
～好奇心や深い学びを生み出す手立ての構築～」

学習指導案

国語科 学習指導案

学 校 名：追浜中学校
授業者氏名：佐々木 純平

- 1 日時 令和5年（2023年）11月17日（金）5校時（14:00～14:50）
- 2 場所 2年2組 教室
- 3 学級 2年2組（36名）
- 4 単元名 「武士の生き方どう思う？」（古典に学ぶ『平家物語』より「那須与一」）
- 5 単元目標（育成を目指す資質・能力）
 - ・武士の生き方やものの見方について理解し、自分自身の考えを広げ、深める。

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語句の意味や作品の特徴に注意しながら音読することを通して、古典のリズムや古典に表れたものの見方や考え方を理解している。	・場面や状況を捉え、登場人物の言動の意味などについて理解し、内容を解釈している。（読むこと） ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりしている。（読むこと）	古典のリズムや古典に表れたものの見方や考え方を理解し、登場人物の言動の意味などについて理解しようとする中で、自らの学習を調整しようとしている。また、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めようとしている。

7 単元（題材）の指導計画と評価計画（全7時間）

次	時数	目標	学習活動	評価規準
第一次	1	・単元全体の目標と見通しを持つ。 ・「平家物語」のあらましと「無常観」を理解できる。 ・古典のリズムや、七五調、対句などの表現上の特徴を理解できる。	・学習目標を確認する。 ・「平家物語」のあらましを知る。 ・「祇園精舎」を音読し、内容とリズムの特徴を捉える。 ・「無常観」という考え方を知る。 ・源平の合戦の経緯について知る。	【知】古典のリズムや表現の特徴を理解している。「無常観」という考え方を理解している。

第二次	4 (本時は第二次の二時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ・命じられてから矢を射るまでの与一の心情の変化を考え、理解できる。 ・扇を射たときの源氏と平家の反応を捉えることができる。 ・最後の場面での二者の発言が、それぞれどのような気持ちからのものだったか想像できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通して心情理解に繋げる。 ・「那須与一」を読み、エピソードの背景や経緯、内容をつかむ。 ・前次で学習した表現の特徴を意識しながら「那須与一」を音読する。 ・「那須与一」前半と終盤の状況の違いを読み取る。 ・要所における登場人物の言動の意味などを捉える。 	<p>【知】古典のリズムや表現の特徴を理解している。</p> <p>【思】場面や状況を捉え、登場人物の言動の意味などについて理解し、内容を解釈している。</p>
第三次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を貫く「無常観」との関連を考え、自分の考えをもつことができる。 ・武士の生き方や価値観と自分を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「無常観」との関連について考える。 ・最後の場面において、自分だった源氏と平家のどちら側に共感できるか考えて班で話し合わせる。武士の生き方や価値観について感じたことをまとめる。 ・学習を客観的に振り返る。 	<p>【思】文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりしている。</p>

8 本時の指導

(1) 目標

- ・那須与一の置かれた状況とそのときの心情を想像できるようにする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点・支援の手立て	評価（観点・場面・方法）
<p>○前時のふりかえりを行う。</p> <p>○本時の目的と流れを確認する。</p> <p>○班対抗的当てゲームを2回戦行う。班から1名出す。 〈黒板の的にボールを当てる〉 〈それぞれ条件がある〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Round 1</div> <p>条件 【的が動く。ペナルティなし。】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Round 2</div> <p>条件 【的の中央に当てなければいけない。一番的外れだった班にはペナルティがある。】※実際にはない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけない。 ・班の中で<u>なぜその人を代表にしたのか</u>をしっかりと説明できるように選出させる。 ・自チーム、他チーム関わらず、ボールが的に当たったときの周囲の反応がどうであったかを次時で想起させる。 	<p>次回の指導に生かす評価</p> <p>【観点】思判表 「自分の感じた心情を、場面の状況を踏まえて想像し表現することができている。」</p>

<p>○実施した6名が、的に当てるときにどんな気持ちだったかを想像する。もし自分だったらどんな気持ちになるかも想像する。</p> <p>○6名に気持ちを聞き、なぜそのような気持ちになったのかを考える。また、6名の気持ちに差があったとき、それが何による差なのか確認する。</p> <p>○絶対に失敗できない場面において、「絶対に失敗できない理由」は何なのかを話し合い、まとめる。</p> <p>○本時で感じた感覚を次時の人物心情読解に生かせるようにする。</p>	<p><u>想定される気持ち</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張した（しなかった） ・ワクワクした ・何とも思わなかった ・なんで自分が… ・別に失敗してもいいや など。 <p>⇒いずれの気持ちにせよ、なぜそのような気持ちになるのか、なぜ差が生じるのかをあらゆる要素から想像する。 (例)場の状況はどうだったか。何が理由で選ばれているのか。</p>	<p><u>次時以降の評価</u></p> <p>【観点】思判表 「場面や状況を捉え、登場人物の言動の意味などについて理解し、内容を解釈している。」</p> <p>【場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い ・ワークシート記述 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見取り ・ワークシート記述確認
<p>【支援】心情を表す言葉を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここで考えられるのは現代の価値基準であり、次時以降に学習する与一の状況や心情とは相違点があることに留意させる。 ・現代人と武士の価値観の違いを考えるうえで、本時で感じた気持ちの「差」がヒントになることを伝える。 		

9 「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための手立て

【主体的な学び】

- ・学びのプランを提示することで、生徒自らが学習の見通しをもてるようにする。
- ・何が目標であるのか、何ができるようになると良いのかを明確に示すことで学習の見通しが立てられるようにする。
- ・既習事項を生かしたり、例を挙げさせたりすることで自ら取り組めるようにする。

【対話的な学び】

- ・音読活動中に、どのような特徴が挙げられそうか考えさせることで活発な意見交換ができるようにする。
- ・対照的な二つの価値観の是非を班で話し合わせることで、様々な考え方を知り、自分の考えをよりよいものにできるようにする。

【深い学び】

- ・ゲームによる疑似体験を通して、本文における人物の心情を状況を踏まえて読み取れるようにする。
- ・「自分だったらどうするか（どう考えるか）」を常に中心に置くことで、当時の武士の価値観を捉えやすくするとともに、意見交換の際に自分の考えを深められるようにする。

理科 学習指導案

学 校 名：追浜中学校

授業者氏名：鈴木 貴司

1 日時 令和5年（2023年）11月17日（金）5校時（14:00～14:50）

2 場所 1年1組 教室

3 学級 1年1組（41名）

4 単元名 単元3 身のまわりの現象 1章 光の世界

5 単元目標（育成を目指す資質・能力）

身のまわりの物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、観察や実験を通して技能を身につけ、その規則性や関係性を見出して表現できる。

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身のまわりの事物・現象を日常生活に関連付けながら、基本的な概念や原則・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察や実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	身のまわりの事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを計画・実行し、規則性や関連性などを見だし表現するなど、科学的に探究している。	身のまわりの事物・現象に進んで関わり、基本的な知識などを活用し、見通しをもって取り組む中で振り返ったりする中で、科学的に探究する姿を調整している。

7 単元（題材）の指導計画と評価計画（全26時間）

次	時数	目標	学習活動	評価規準	重点	記録
第1次	1	・光を理解していくうえで重要な現象や光を原理とした身のまわりの機械などを出し合い、単元の計画をたてる。	・Canvaのホワイトボードを使い、クラスで共有する単元の課題を設定する。	【主】学習の見通しを立てて、これからの学習計画を考えられている。	主	○

	5	・各授業で設定した課題を実験や観察をし、グループワークから解決する。	・物の見え方、光の反射、光の屈折、レンズの仕組みについて法則や規則性を見つける。	【知】光についての観察・実験技能が身についている。 【思】観察・実験などから関係性や規則性に気づくことができている。	思	
	<p>本時 3時間目 (光の屈折)</p> <p>1-1 は光の反射、影や虹のでき方、光の屈折、レンズの仕組みの順番で学習</p>					
	2	・光の規則性や関係性、機械や現象など得た知識などを用いてフェルマーが発見した原則に気づく。	・各現象の規則性を復習した後で、スネルの法則を使って、フェルマーの原理を導く。	【思】各授業で得た法則や機械の原理を結び付けて考えることができている。	思	○
2	・光の世界で身に付けてほしかったことや正確な原理・原則を理解する。	・法則や規則性、作図のしかたについて正しく理解する。	【主】授業で習得した知識を活用し、単元を振り返ることができている。	知・主	○	

第2次	6	・音の性質から高低、大小の関係を理解し、日常の製品や音による現象などを説明できる。	・音の伝わり方を楽器などを用いて理解する。 ・弦のはじきかたにより、音に高低、大小の違いがあることに気づく。	【思】弦をはじく強さや弦をはじく長さなどから音の大きさ、高さなどの関係性を見いだしている。 【主】日常生活における様々な音からその特徴など知識を活用し、科学的に探究している。
第3次	8	・目に見えない力を作図をすることで視覚的に理解し、日常の現象や2つ以上の力がつりあったときの様子から力のはたらきを説明できる。	・力の作図を理解し、物体にはたらく力を作図できる。 ・2つ以上の力が合わさることでのどのような関係性があるか気づく。	【主】実験の測定値などをグラフなどでまとめることができている。 【思】自分たちの測定結果から関係性や関数の知識を使って数式化することができる。

8 本時の指導

(1) 目標 光が曲がる仕組みを解明する。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点・支援の手立て	評価（観点・場面・方法）
<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトシートから今回の授業で解決すべき光の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトシートは振り返りシートの裏にも印刷し、いつでも確認できるようにする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 目標(前時に自分たちで作成するため、現状未定) </div>		
<ul style="list-style-type: none"> やることを全体で確認する。 <p><展開></p> <ul style="list-style-type: none"> 観察・実験器具を使って解決すべき課題について取り組む。 ①どんなときに光が曲がるのかを見つける。 ②ガラスに光を入れて角度の関係を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> 気づいたことを chromebook を使って課題解決シートに付箋で張っていく。 <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の光の現象について気づいたことをまとめる。 振り返りシートを記入し、プロジェクトシートを用いてクラス全体で次の時間取り組むべき課題について決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚支援 (プロジェクター投影) スライドでの手順、実験機器などの使い方を提示 Canva 内でのタイマーでの時間管理 役割を毎回の授業で割り振り、ローテーションさせる。 早く終わった班は他班の気づいたことや法則などをヒントに自分たちの班でも実証する。 色覚支援(プロジェクトシートの優先度と色を同じにする) 	<p>【知】 光についての観察・実験技能が身につけている。(行動観察)</p> <p>【思】 観察・実験などから関係性や規則性に気づくことができている。(記述分析・発言分析・行動分析)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>A：必ず空気中の方が角度が大きいことに気づいている。</p> <p>B：異なる物質を通過するときに光が曲がることに気づいている。(C を B にあげる手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体で気づいたことを共有する ⇒みんなに知ってほしいことを全体で確認する。 ⇒自分たちでは気づけなかったことを全体で確認する。

9 「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための手立て

- ① Canva を使ってクラス全体で単元を見通した計画を立てる。
→特に、単元を理解するために学ぶべき順番を自分たちで考え、解決済みにいれていくことで自分たちでその単元を理解していく過程を感じ取れるようにする。
- ② その日の授業の目標を自分たちで決める。(前時の最後に決める)
→毎時間振り返りシートを見ながら次回の授業で理解することを調整しながら進める。
- ③ グループワークと chromebook を使った全体共有。
→気づいたことを生徒がリアルタイムで追加をしていき、出来上がったシートからわかったことワークシートに記入する。

【研究に携わった職員】

校長 山本洋司

教頭 中島志

教諭	国語	木屋哲人	関口董子	佐々木純平	田川裕之
	社会	西村翔	原真一	秋月涼介	
	数学	齋藤宣人	丸山そよ子	西祐美	及川靖子
	理科	鈴木貴司	有賀雄高	加茂千里	
	音楽	秋葉眞澄			
	美術	津島綾			
	保健体育	高橋拓也	水口穂夏	杉浦翔太	
	技術家庭	佐々木恵太	杉山彩華		
	英語	栗林望未	原裕平	河門前貴信	大井俊
		ジョンソン・サラ			
	支援	岡村麗香	川瀬智晴	長谷川裕子	渡邊弘美
		武藤謙二			
	養護	大谷理恵			

研究推進グループ 有賀雄高 河門前貴信 佐々木恵太 田川裕之
ジョンソン・サラ

令和5年度（2023年度） 横須賀市教育委員会 チャレンジ研究委託

多様な生徒たちから「主体的に学び」「深く思考する」姿を引き出す
学校づくりに関する研究～好奇心や深い学びを生み出す手立ての構築～

研究紀要

発行 令和6年（2024年）3月

発行者 横須賀市立追浜中学校
TEL: 046-865-6141
FAX: 046-865-6212
E-mail: admini@oppama-j.yknet.ed.jp

